

市場の永続化設計

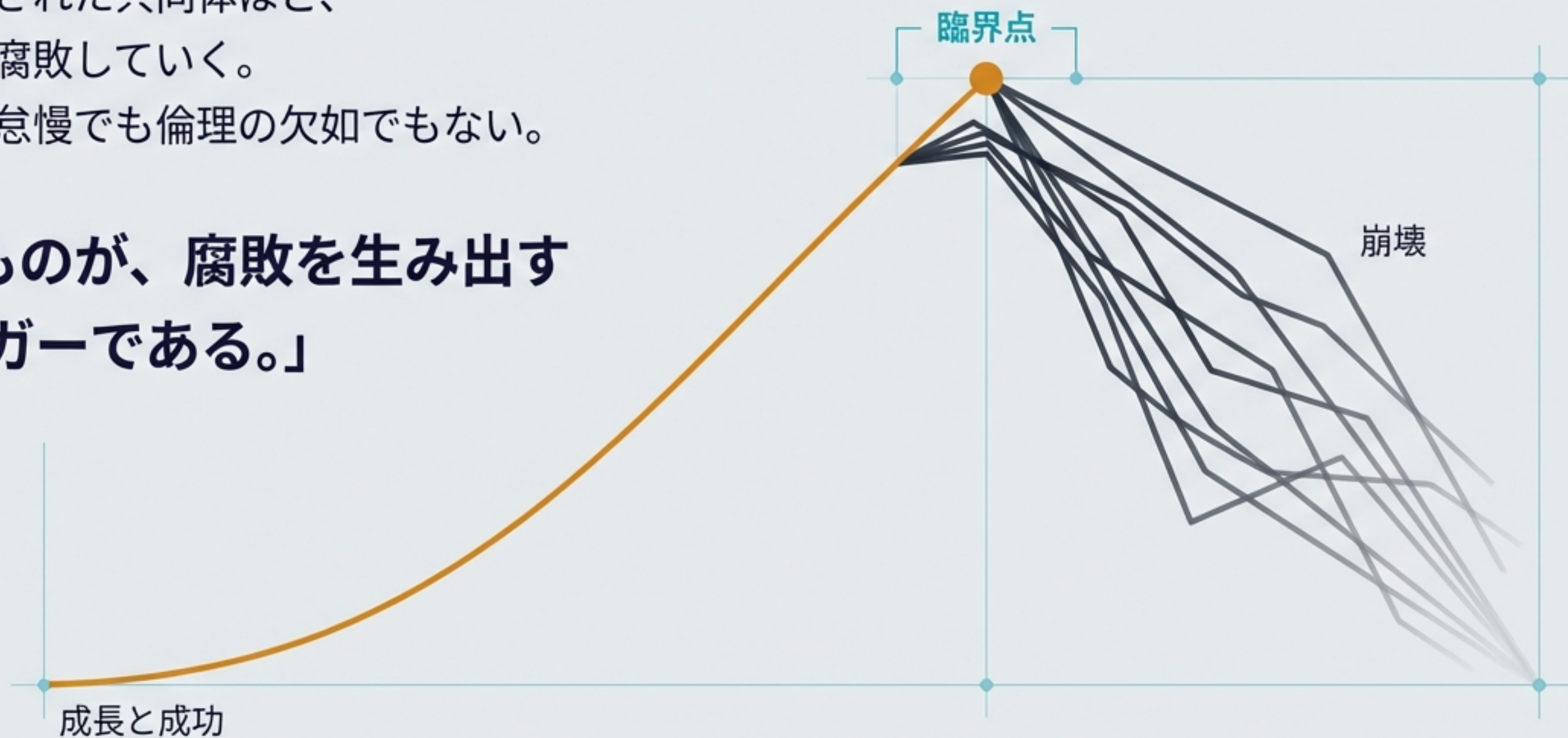
「腐敗（エントロピー）」に抗う構造的免疫と、新陳代謝のプロトコル

中川式構造論 C系 Vol.3 (Nakagawa Structural OS)

成功は終点ではない。

成功とは「崩壊が始まる臨界点」である。
最も美しく設計された共同体ほど、
内部から静かに腐敗していく。
それは運営者の怠慢でも倫理の欠如でもない。

**「成功そのものが、腐敗を生み出す
構造的トリガーである。」**

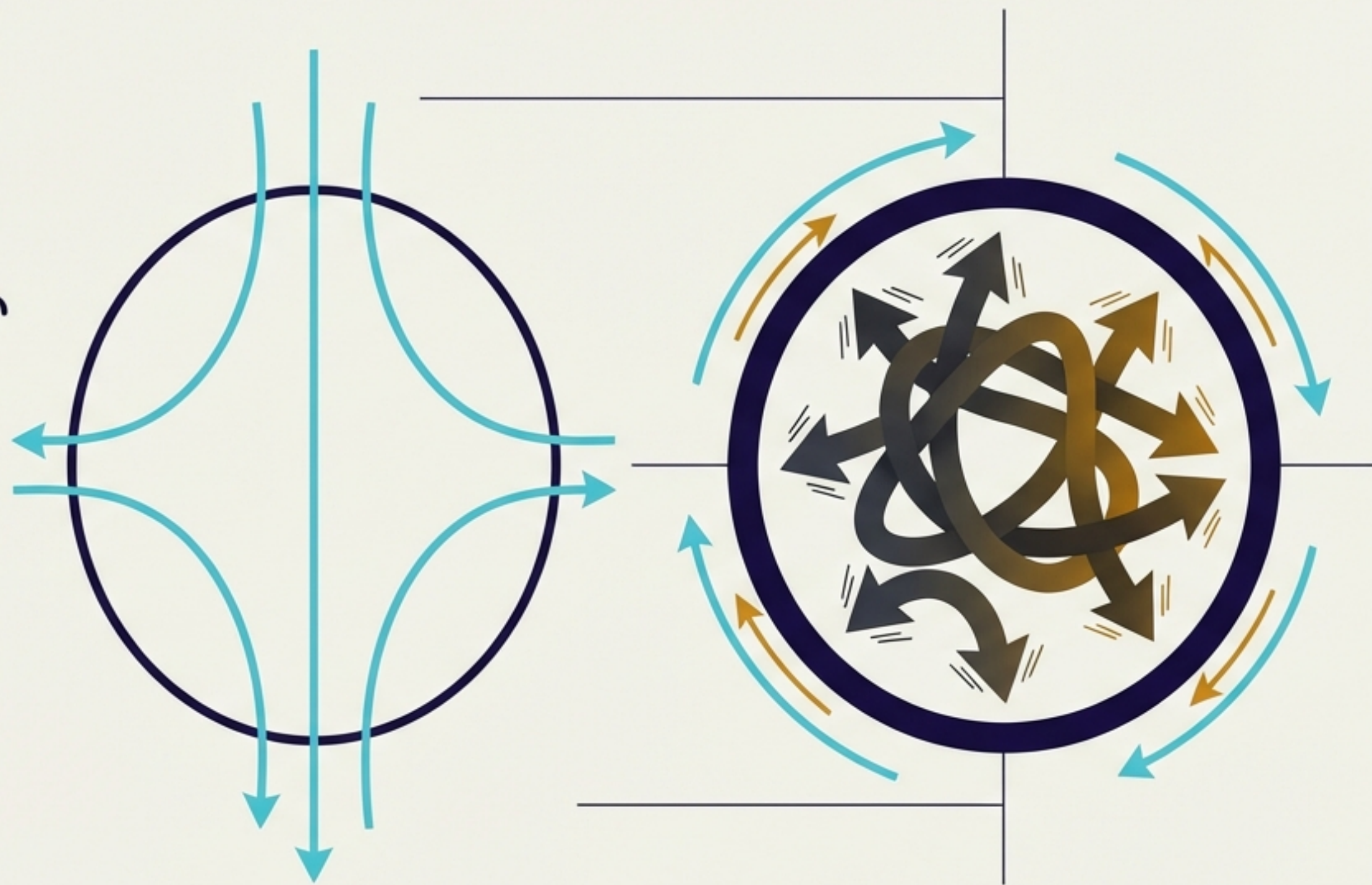


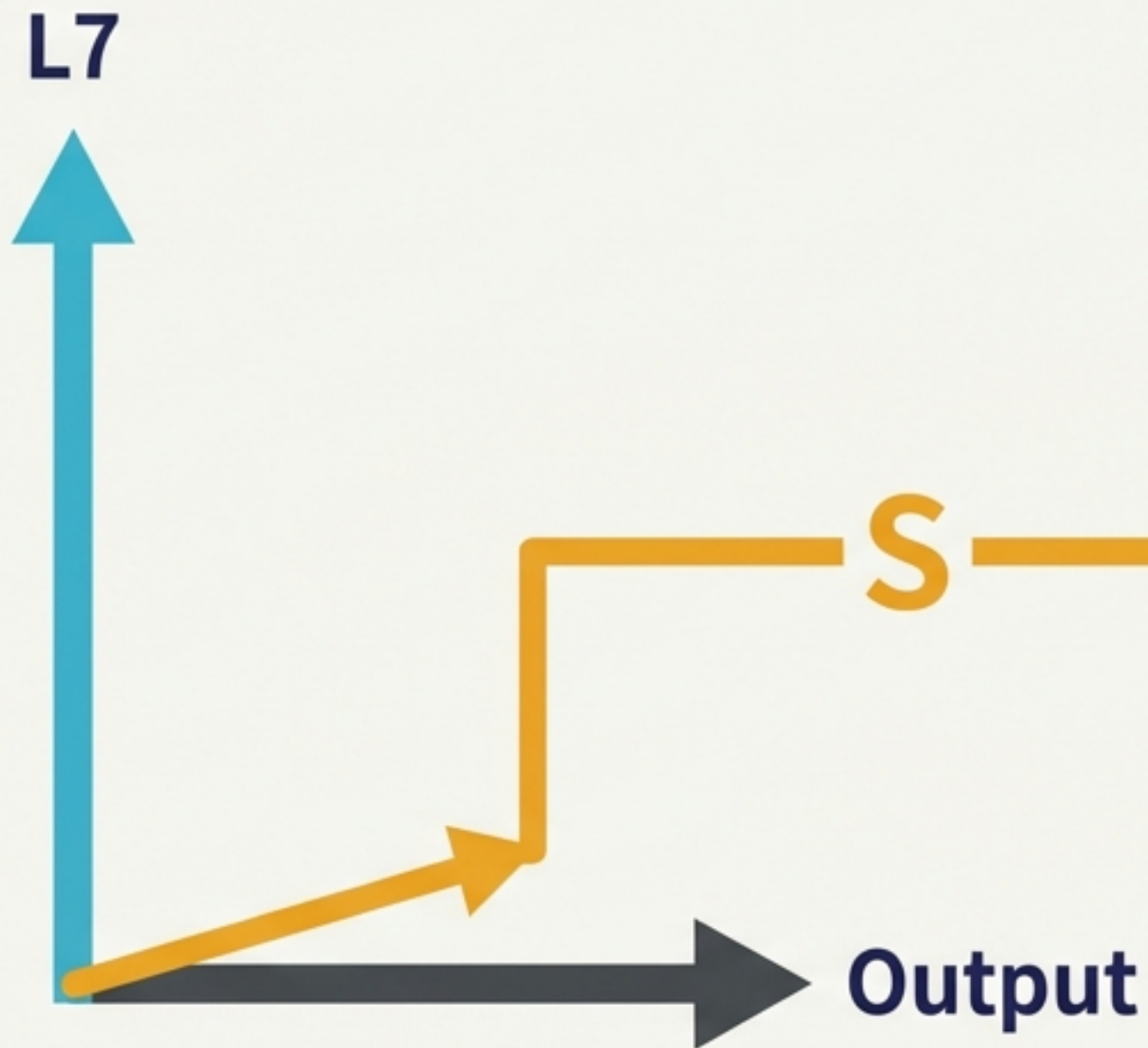
物理法則としての「エントロピー」

閉じた系において、エントロピー
(無秩序) は必ず増大する。

外部とのエネルギー交換を伴わない
「成功した閉じた系」は、必ず
内部で歪みを溜め込む。

腐敗は「人の問題」ではない。
不可は「人の問題」ではない。
不可避の「構造の問題」である。





病理の解明 — 「擬態」という状態

成功し、報酬（S）が増大した市場には必ず発生する。これは悪意ではなく、人間の「合理的な状態変化」である。

【L7（価値関数）】：システムが掲げる理念・理想・方向性。

【擬態（Mimicry）】：L7と実際の出力が乖離しているにもかかわらず、接続報酬（S）だけを受け取り続けている状態。

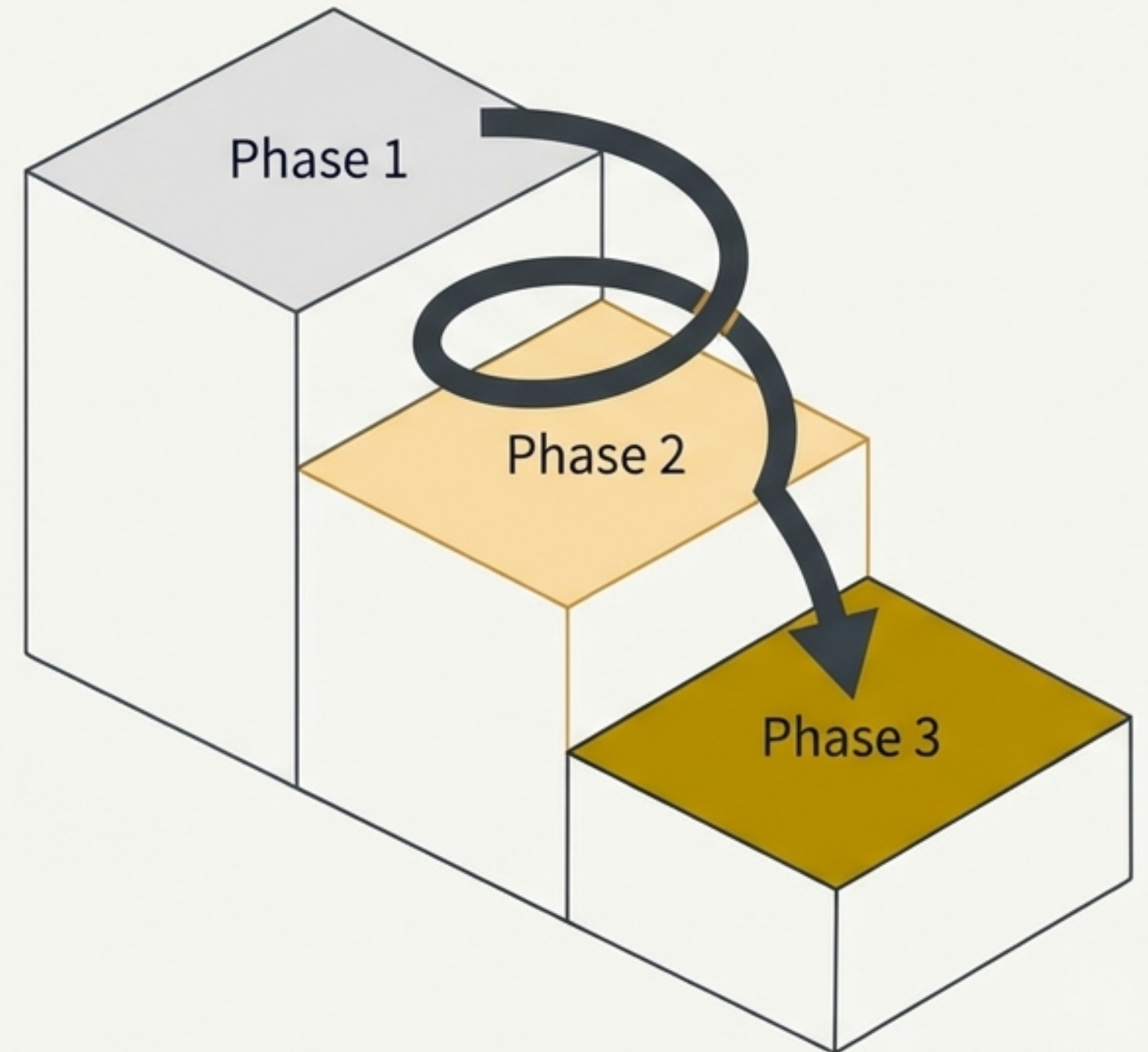
擬態が増殖した市場の「三つの腐敗」

Phase 1: L7の装飾化 —— 理念は語られるが、実行されない。言葉だけのスローガンへ劣化する。

Phase 2: 真の貢献者の疲弊 —— 負荷を引き受ける層にコストが集中し、相対的に損をする構造が生まれる。

Phase 3: 純度の高い新規の拒絶 —— 内部の純度低下を察知し、真にL7に共鳴する層が自ら接近を避ける。

放置すれば、市場は拡大しているように見えて、静かに閉じ始める。

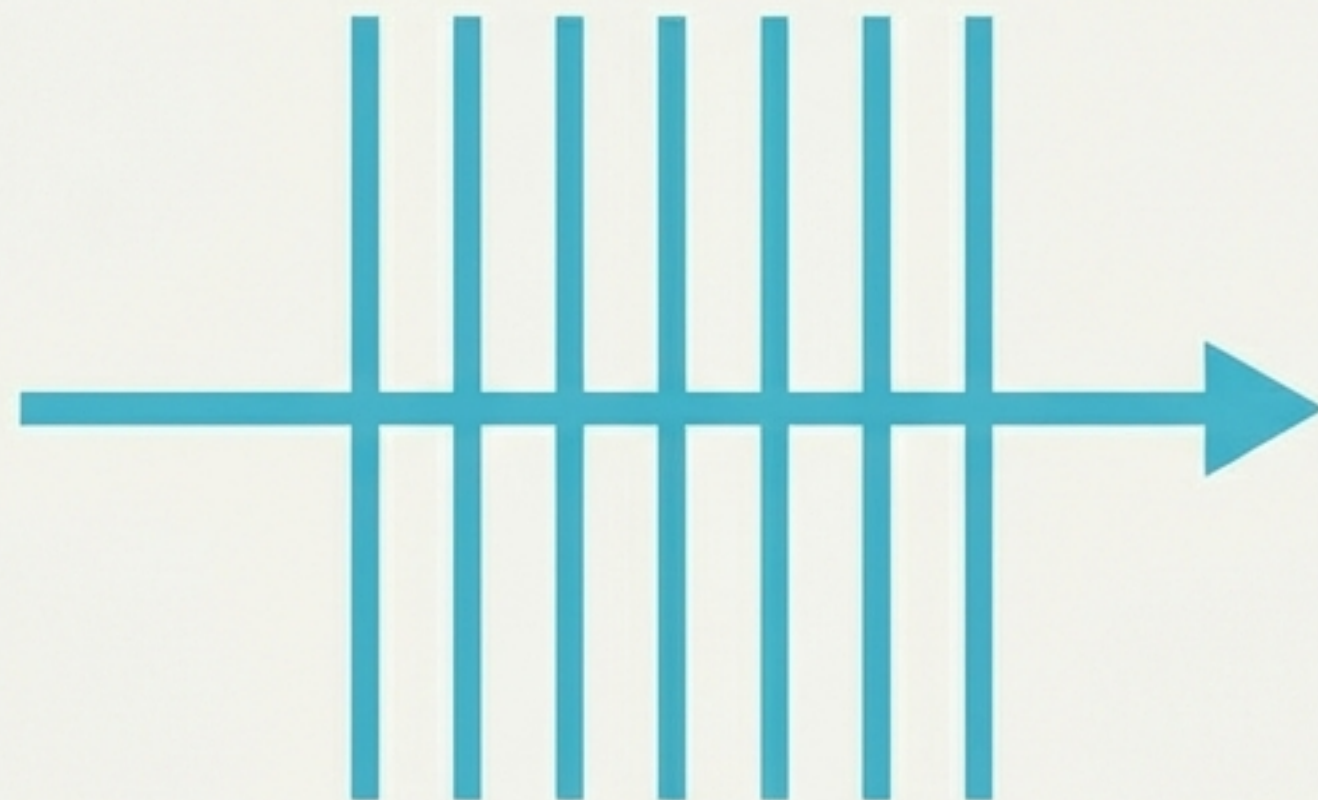


「構造的検疫」へのパラダイムシフト

人を裁かず、意図を詮索せず、ただ「出力とL7の整合性」だけを観測する冷徹なフィルター。
思想や性格は問わない。現在の負荷と行動の整合性のみを問う。



性善説（無秩序への墮落）



第三の道 —
構造的検疫（Structural Quarantine）

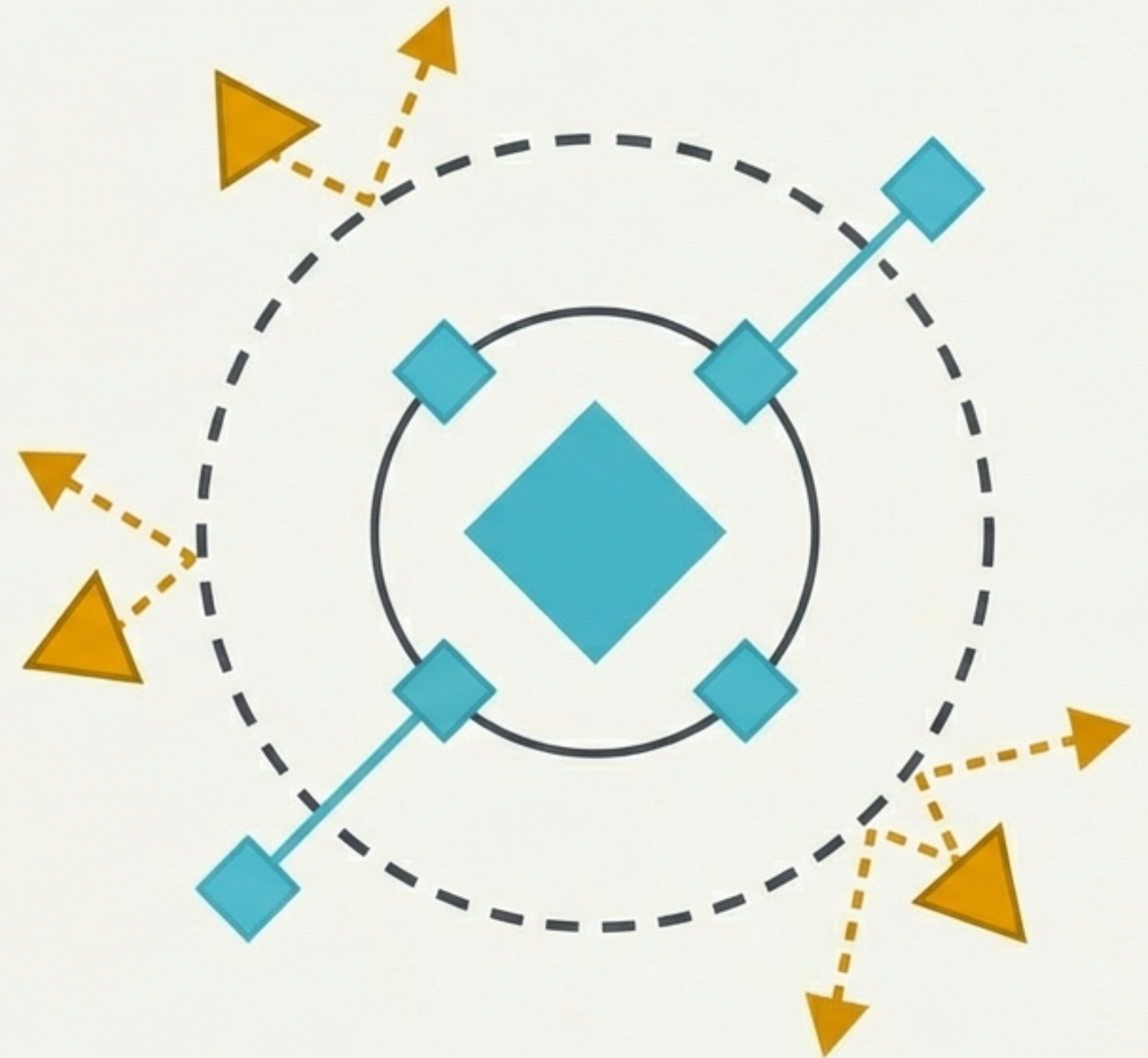


性悪説（人格裁判・監視社会）

防衛機構 —— 構造的免疫 (Structural Immunity)

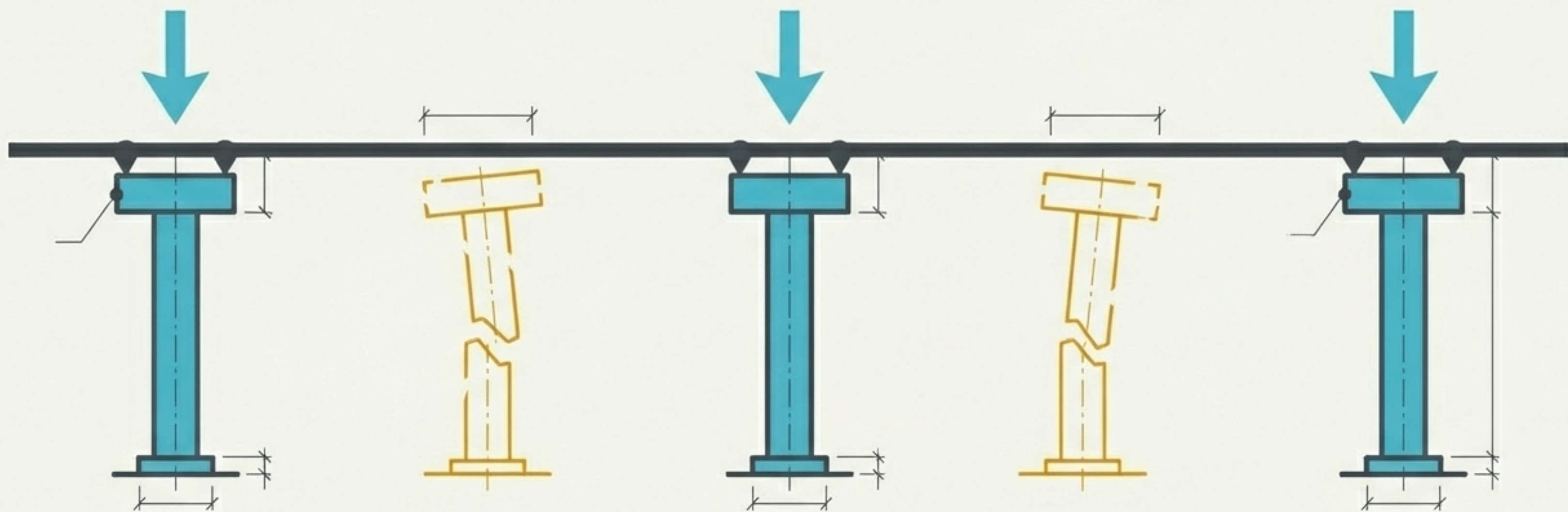
【構造的免疫】：人を裁定する権力装置ではなく、L7とのズレが蓄積した際に、循環全体が破壊される前に是正・代謝を可能にする設計思想。

免疫の目的は「悪を罰すること」ではない。
「純粋な貢献 (C) が生き残れる環境を維持すること」である。意図が善であることと、構造的に適合していることは別問題である。



免疫の第一層 —— 「踏み絵」の再定義

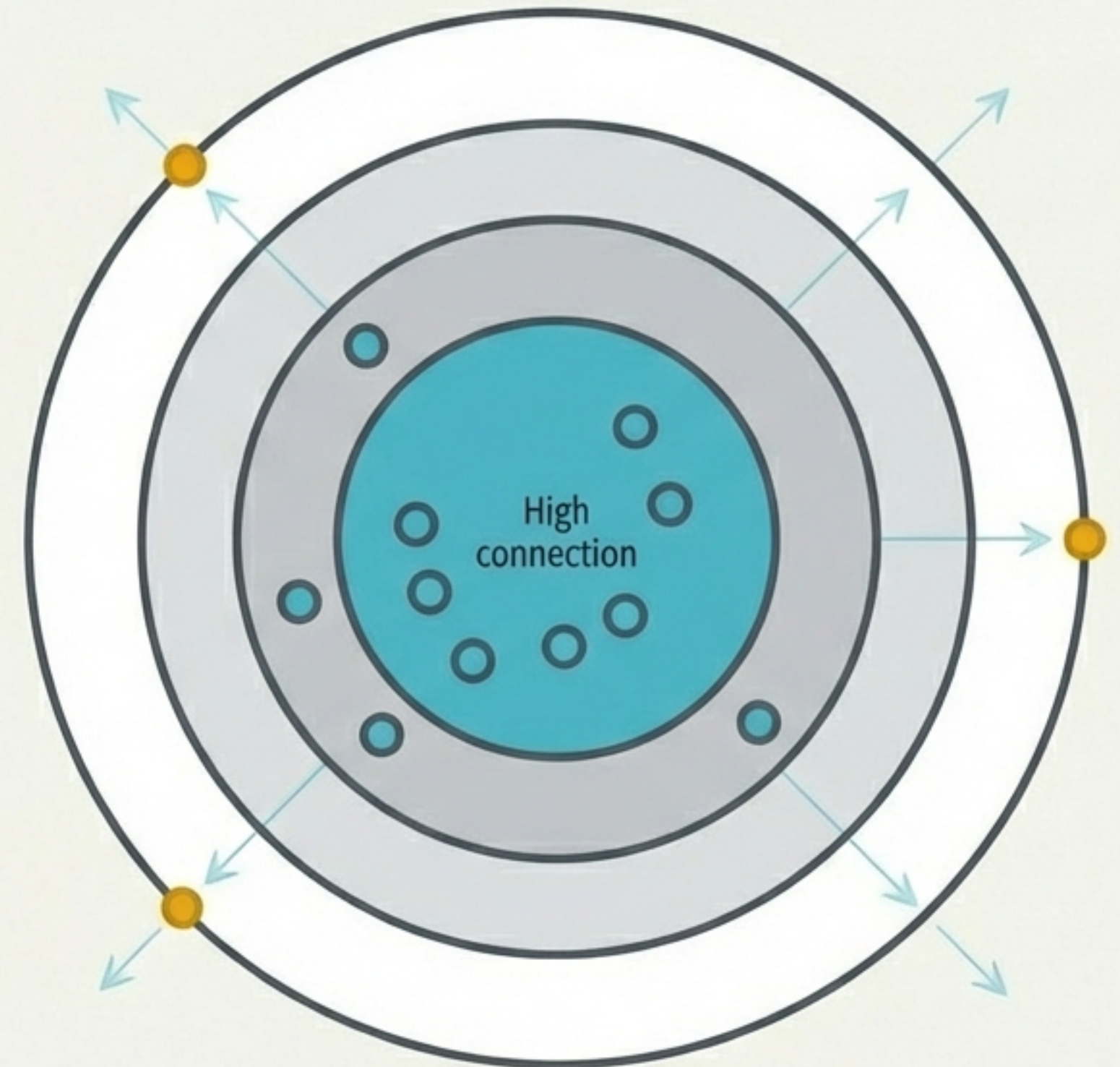
ここでの「踏み絵」は、思想チェックや忠誠テストではない。「変化と不便・負荷を引き受けられるか」を確かめる構造的装置である。入会時の度きりではなく、定期的に、形を変えて更新されなければならない。表明ではなく、行動を要求する。



「居心地」のデザインによる自動検疫

攻撃はしない。しかし、貢献しない者は称賛も居場所も得られない。この「何も起こらない」状態こそが、報酬 (S) を求める擬態状態にとって最大のストレスとなる。

免疫は、追い出すことなく、自然な「離脱」を促す。

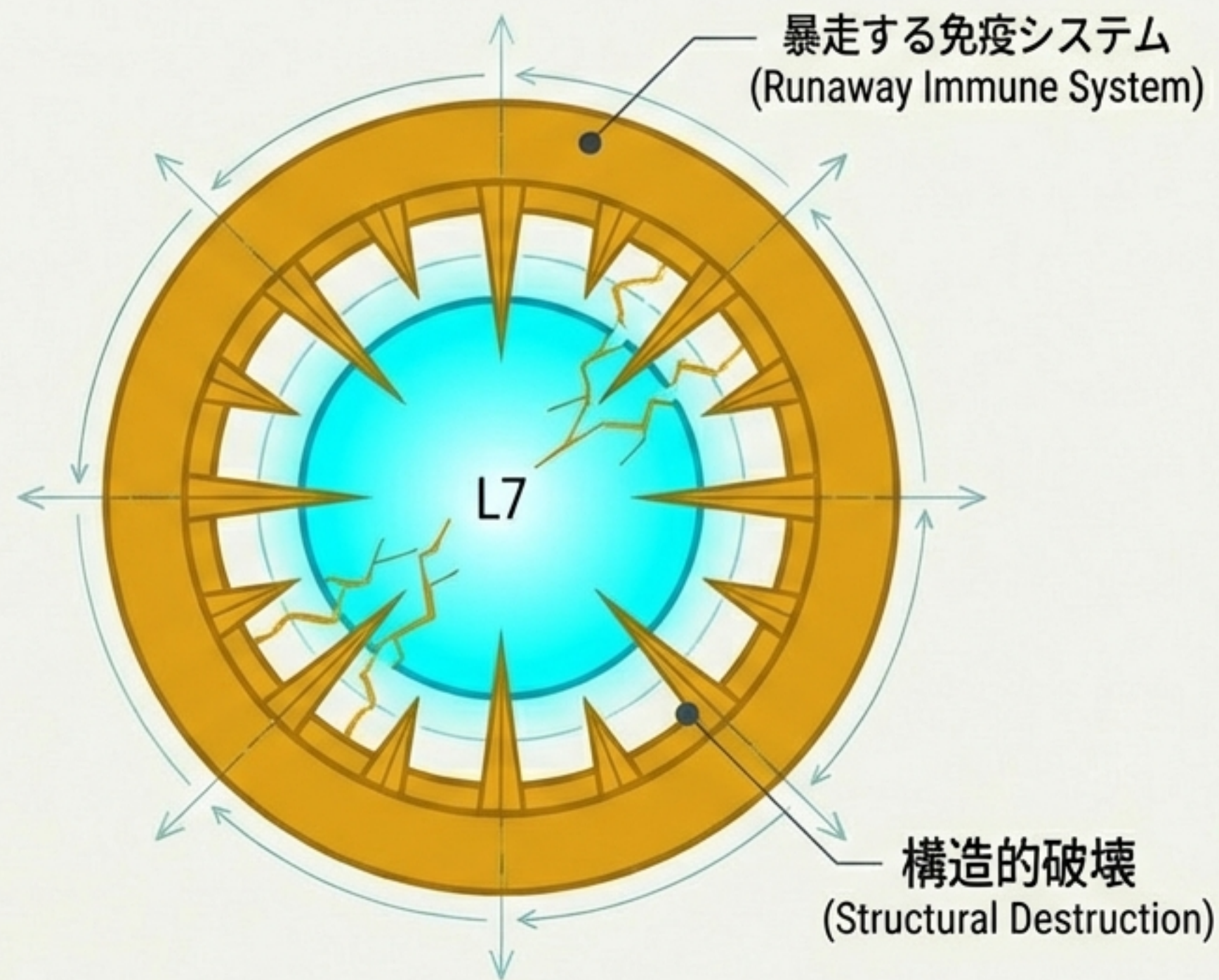


致命的エラー —— 「自己免疫疾患」

免疫が暴走する瞬間がある。

- 古参が免疫を私物化する
- 「正しさ」が序列化される
- 踏み絵自体が目的化する

これを防ぐ唯一の法則：判断基準を「過去の功績」や「人格」から完全に切り離せ。問うべきはただ一つ、「今この瞬間、L7と出力は整合しているか」。

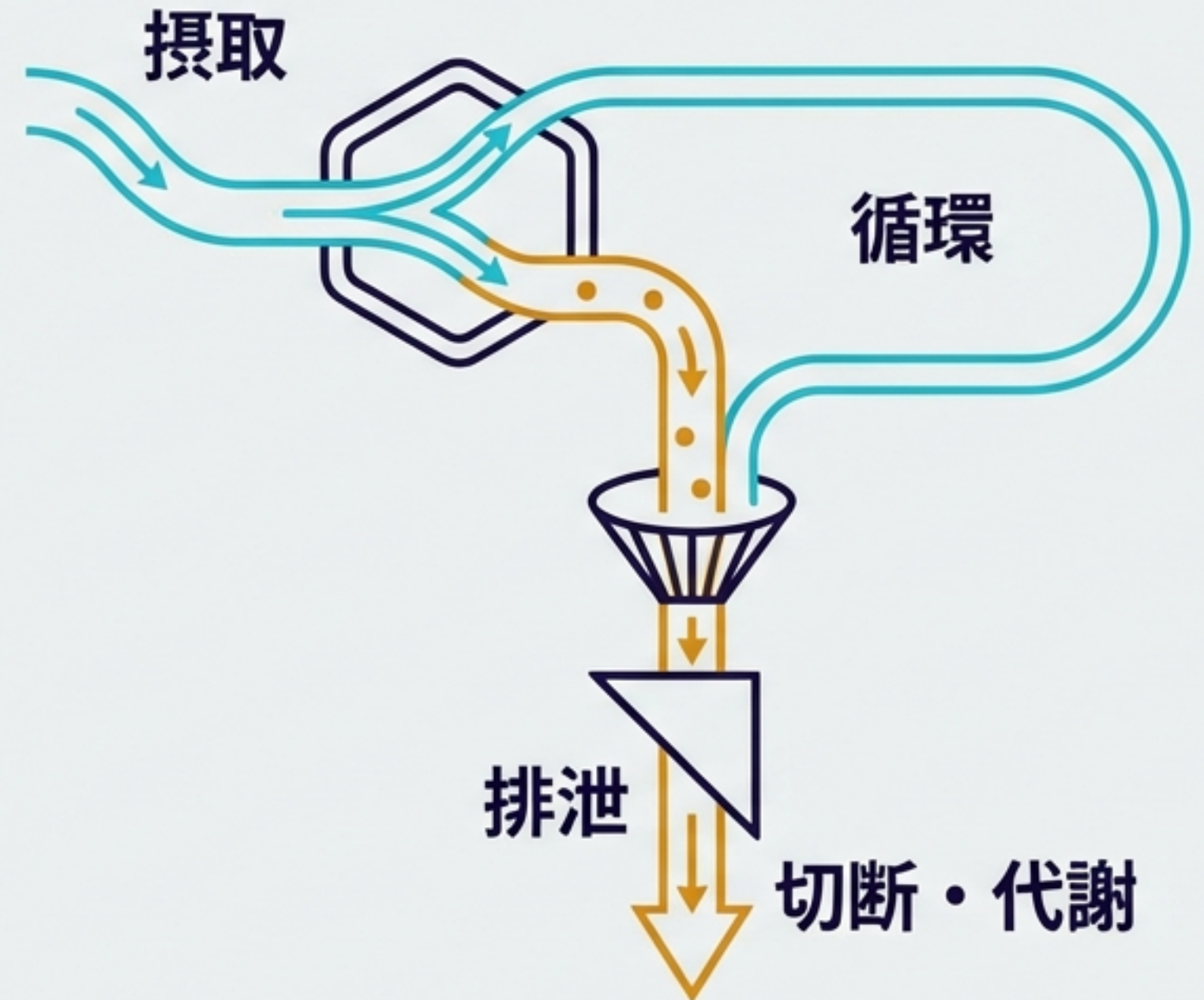


循環と排泄 —— 新陳代謝 (Metabolism)

生物にとって、摂取よりも重要な機能が「排泄=代謝」である。

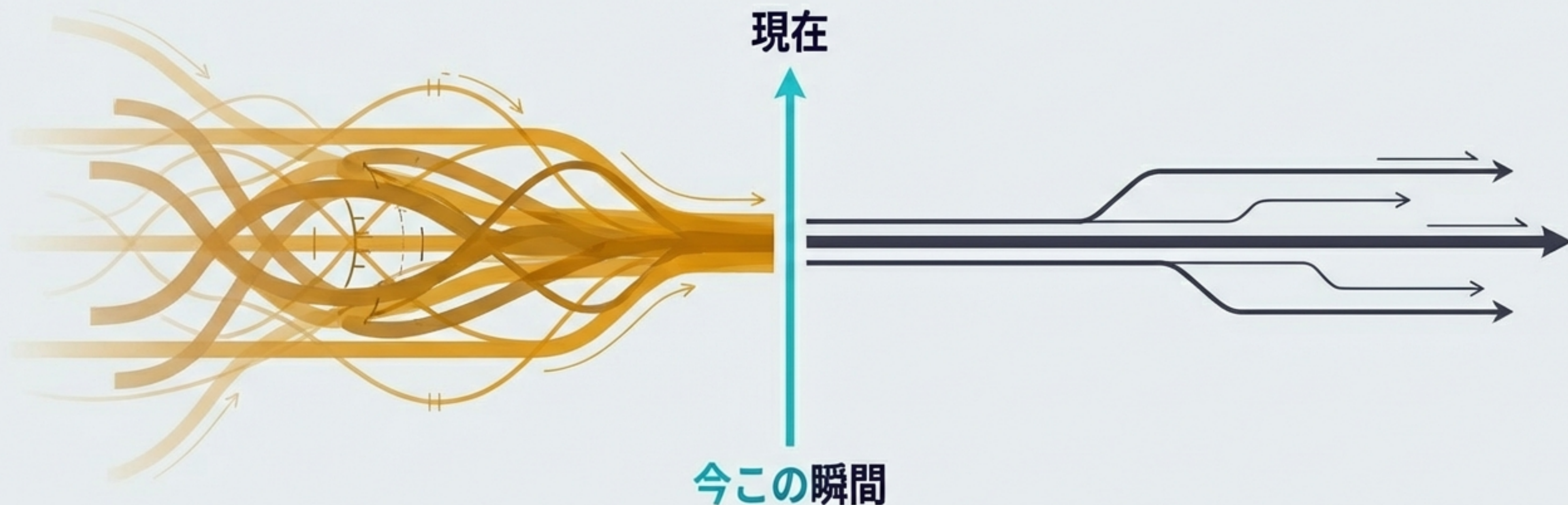
価値ある顧客、優秀なメンバー、潤沢な資金。集める「摂取」の技術ばかりが磨かれ、手放す・終わらせる「切断」の技術が欠如している。

代謝なき組織は、動かないものが支配する構造へと変質し、内側から死ぬ。



代謝を阻む毒 — 「サunkコスト」の幻影

「昔は助けてもらった」「初期から支えてくれた」これらは過去の事実であり、現在の
免罪符ではない。 サunkコストを理由に切断を拒むのは「やさしさ」ではない。
今この瞬間も負荷を引き受けている現役層に対する、構造的な不正義である。



美しい切断 — 「卒業」というプロトコル

切断とは追放や制裁ではなく、「循環を維持するための流路制御」である。善悪や上下を一切持ち込まない。人が悪いのではなく、構造と状態の

「方向性が分岐した事実」を承認する。

この言語化ができる市場は、切断を傷にせず、健全な節目として記憶する。



「規模」の罠からの脱却

「人を減らせない」「事業を畳めない」——この状態は柔軟性を失った崩壊の前兆である。規模は「目的」ではなく、単なる「設計変数」に引き下げるべきだ。問うべきは「今の規模は、L7・免疫・代謝と完全に整合しているか？」のみ。



最大化 (Maximization)

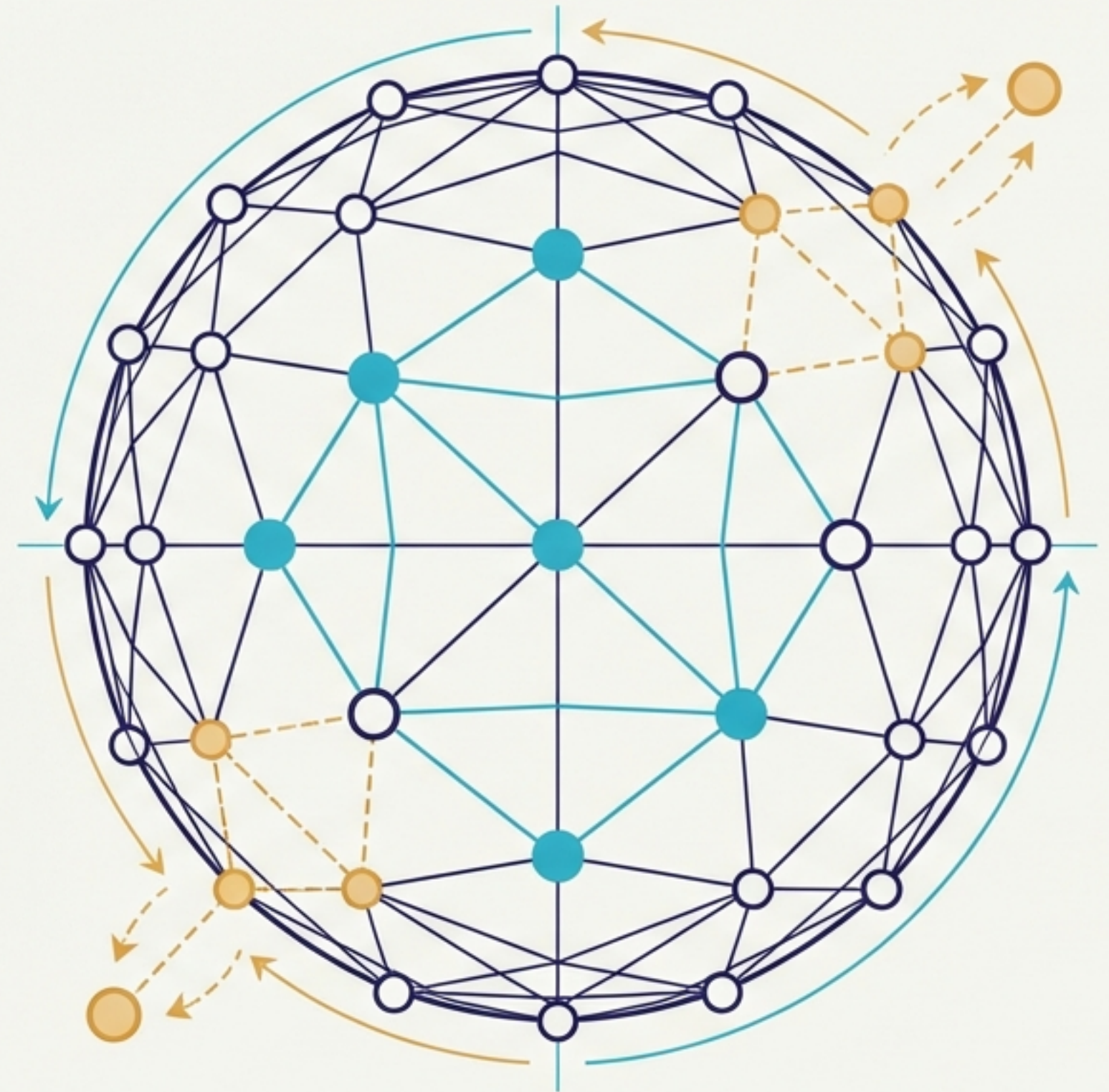


最適化 (Optimization)

永遠の設計 —— 動的平衡 (Dynamic Equilibrium)

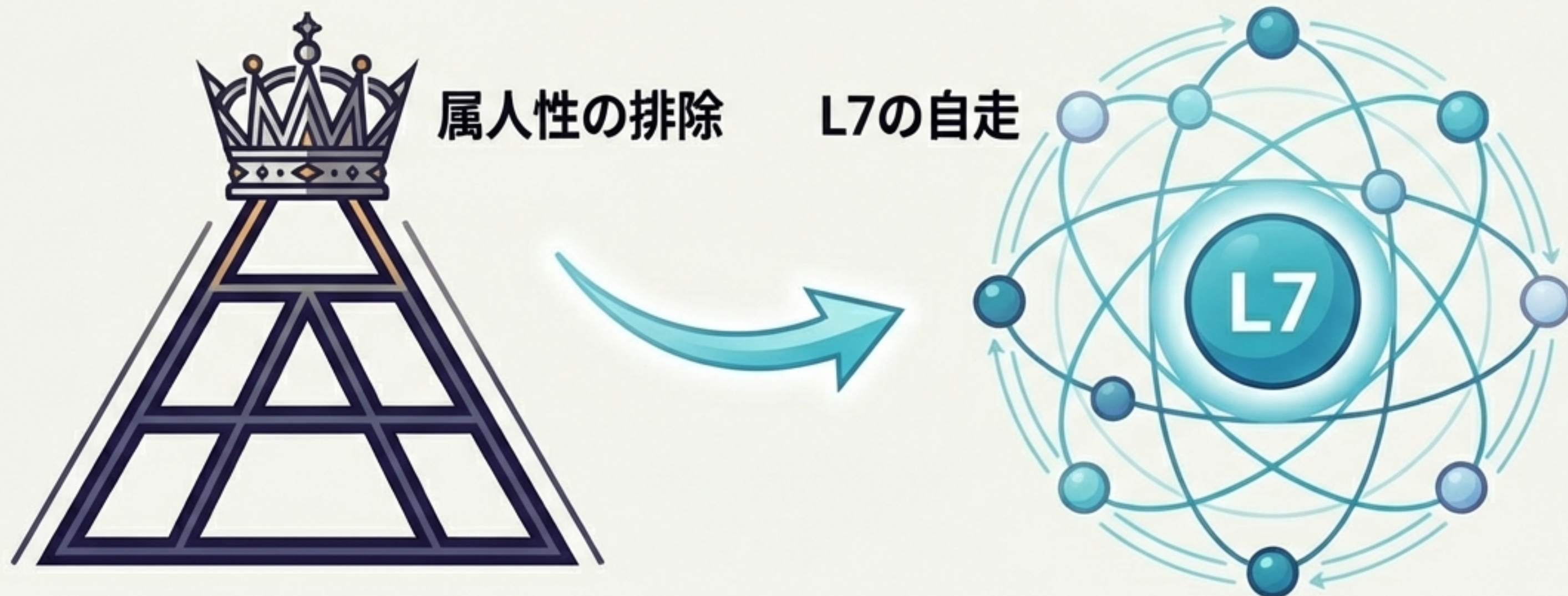
【動的平衡】：形を固定することではなく、絶えず入れ替わり続けることで全体の安定を保つ状態。

「この形が完成形だ」と信じた瞬間から、構造の硬直と老化が始まる。
変わらないために、変わり続ける。
細胞が入れ替わるように、
入替・更新・検疫・卒業が常に
走っている状態こそが、最も強い。



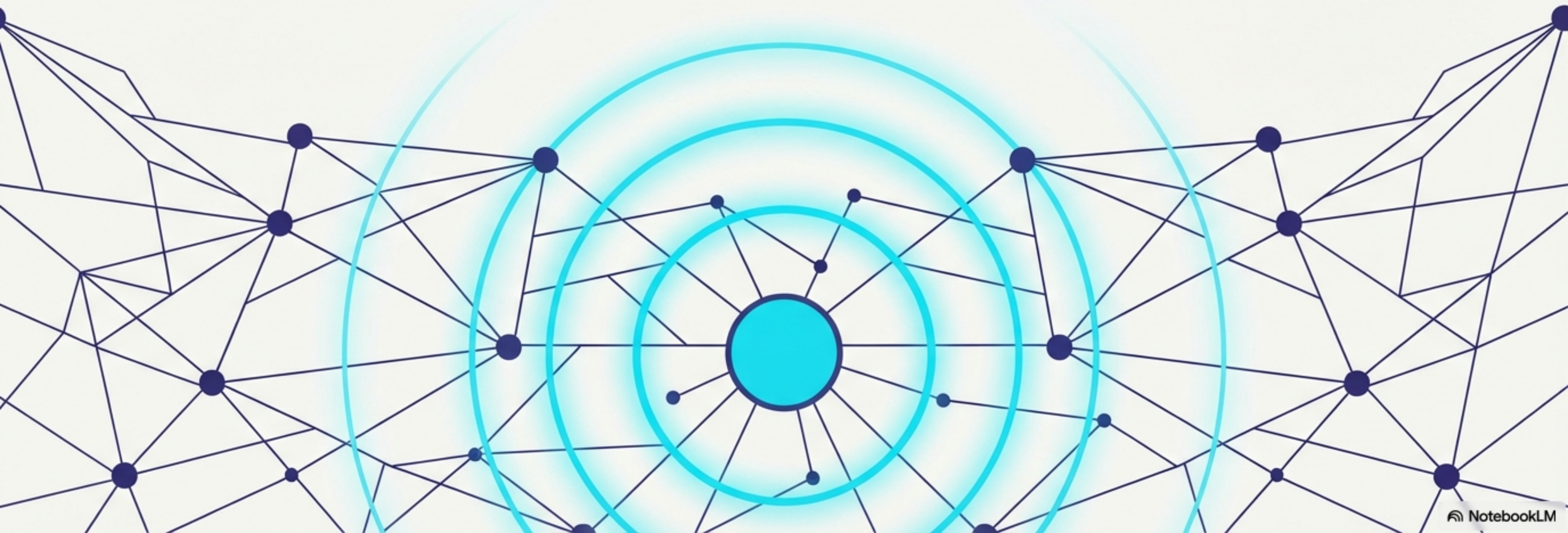
属人性の排除と「L7の自走」

真に永続する市場とは、L7（価値関数）が人の意志を介さずに自走し始めた状態である。創始者が不在でも判断がブレず、不整合が起きれば内部から自動的に是正（免疫・代謝）が働く。創始者は「王」ではなく、構造の「設計者」となる。



新たな役割 —— 文明の「拍動点 (Pulsation Point)」

経済とは、売上を積み上げるゲームではなく、「価値・人・資源・時間を腐らせずに循環させ続ける技術」である。塔を建てる仕事ではない。庭を手入れし続ける仕事だ。創始者は支配者ではなく、循環の中で血流を生む「結節点 (Node)」となる。



静かな責任として

拡大よりも、縮小。獲得よりも、切断。加速よりも、拍動。

もしあなたが「壊したくないが、このままでは腐る」という地点に立っているのなら。

これは重荷ではない。選ばれた証でもない。

ただ、文明を次に渡すための、静かな責任である。

